

小呂野通信

よりよく生きることを支援する
support making your life better

2026（令和8）年2月号

発行日 2026. 2. 17

NPO法人 小呂野(ころの)

函館市美原5-31-10

TEL 0138-83-8471

FAX 0138-83-8472

HP/npokorono.web.fc2.com



「いま 咲いているバラです！」 sakura

巻頭言 「法人設立15年を超えて」

去る2026年1月27日で私たち特定非営利活動法人小呂野は、北海道から特定非営利活動法人(NPO)としての承認を受けて15年を経ました。

本当にあっという間に過ぎた15年でした。

15年前の1月27日。大学での非常勤講師を終えた後、今は故人となってしまった西元さんから「北海道からのNPOの承認の通知が来た…」旨の電話をいただいた時、西元さんの戸惑ったような声と目に入った外の雪景色を鮮明に思い出すことができます。

湯浅留美さんと故西元臣二さんと私の三人で、全くの任意団体「ゆあさ社会福祉士事務所」として手探りで始めたこの活動。「制度の隙間」を埋める実践をしよう、「よりよく生きることを支援する」という理念の下、試行錯誤の中で実践を重ねあっという間に過ぎた15年でした。

気がつけばスタッフは7名。来月からは非常勤のお手伝いも含めて8人の体制になります。15年を経た現在、法人の活動は設立当初には思ってもみなかった展開になっています。裏を返せば、それだけ「制度の隙間」にある方々が多いことの証なのかもしれません。

近年は、罪を犯した方々への支援、いわゆる「司法福祉」の分野での依頼が増えていることも特徴であり、思ってもみなかった展開の一つになっています。

先日、お手伝いしている北海道教育大学函館校の「司法福祉論」の授業を終えました。

学生さんに任意で感想をいただいたのですが、その中に

「授業ではただ知識を入れ込むだけでなく、考える力や向き合う力について教えていただいたと感じております。これからも物事を画一的にとらえるのではなく、多面的に感情だけではなく、理性的に物事を判断してきたいと思います」という感想を寄せていただきました。

日頃の実践を授業の中でお伝えしている中でこのような感想をいただいたことをとても嬉しく思いました。

スタッフが増えても、慌ただしい現状が大きく変わるわけではありませんし、「よりよく生きることを支援する」に足る活動が、思ってもみない形で地域から求められるのかもしれません。

その中でも私たちは常に自分たちの実践を振り返り、この学生さんの感想に恥じることがないような実践を今後とも続けていきたいと思えます。

理事長 湯浅 弥

小呂野 活動報告

前回通信発行以降以降の参加・活動報告

毎週(火)2025後期課程
教育大学函館校「更生保護」

毎週(月)2025前期課程
教育大学函館校

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」

毎週(水)函館高専SSW

隔週(火)健康マージャン

2025年度SW3団体合同研修打合せ参加

6/23(月)～2026年1/29(木) 計11回

2025年

6/23(月) 裁判所委員会

6/28(土) 北海道社会福祉士会定期総会

6/30(月) モルック体験(民商役員さんと)

7/3(木) 「抱僕」奥田知志氏講演会

7/14(月) 成年後見事例検討会

7/16(水) 小呂野カフェ シークレット(虹の日)企画

7/25(金) 七飯町住民向け成年後見セミナー

7/30(水) 小呂野カフェ すいかの日

8/18(月) オンブズマン会議

8/20(水) 司法連携勉強会

8/22(金) 在宅ケア研究会

8/30(土) リーガルSW研修



9/3(水) モルック練習会

9/28(日) 日本保健医療社会福祉学会(札幌)

10/5(日) 民商まつり参加

10/6(月) 成年後見事例検討会

10/11(土) 北海道社会福祉士会出町会長講演会

10/19(日) 基礎研修 I 講師

10/25(土) りんご収穫・抽選発送

11/1(土) 司法分野との関与の在り方を考える研修会(旭川)

11/8(土) 高次脳機能障害リハビリテーション講習会

11/13(木) 2025年度第2回理事会

11/17(月) オンブズマン会議

11/19(水) 司法と福祉連携勉強会

11/28(金) 地域づくり推進研修会

12/4(水) 在宅ケア研修会

12/6(土) 令和7年度モルック親睦大会

12/8(月) 第3回支部定例学習会

12/15(月)～

12/17(水) 司法修習生 実習受け入れ

12/16(火) 裁判所委員会

12/17(水) ばあとなあフォローアップ研修会

12/18(木) 函館市福祉

のまちづくり推進委員会

2026年

1/19(月) 成年後見事例検討会

1/21(水) 司法と福祉連携勉強会

2/7(土) SW3団体合同研修会



ともやキャプテンの

みんなでモルックをやりよう！ 第2回

昨年、はじめてモルック大会にチーム小呂野として参加しました(写真)。

ハンディキャップのある方や当日初めて体験する方と一緒に、敵味方関係なく、どうするとうまく投げられるか、何を狙うと良いのか、そして良い投擲(とうてき)には「うまい！」と声を掛け合ったり。試合結果はどうあれ(!?) 楽しい時間を過ごせました。

そして、今年は、法人の活動として「モルック指導員の派遣」を行います!!

◆派遣料(スタッフ1名)

(1) 2時間3,300円 4時間5,500円

(2) 用具貸出料 1セット550円

◆内容

(1) モルックのルール説明(30分)

(2) 実際に投げる体験(30分)

(3) チーム戦または個人戦のゲーム進行(2セット/1時間)

※日本モルック協会の研修を受けた公認モルック指導員が直接指導を行います。

※興味のある方は、小呂野までご連絡ください(基本、平日の派遣となります。時間は要相談)



2024年にモルックの世界大会が函館で行われたこともあり、道南でのモルック熱は上昇中で、北斗市から昨年の全国大会で4位、就学前の男の子が町内会の大会で優勝(年齢制限なし)、第29回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 函館・北海道でのモルック体験などイベントも多くあり、いろんな人たちが集まって(老若男女障害あるなし関係なく)時には近くで見ていた未経験者も巻き込みながら練習をしているようです。

より良く生きること を支援する人

更生保護施設 巴寮
施設長 長船 浩義 さん

長船さんは、日頃、刑事事件の被告人や受刑者の入
口・出口等の更生支援で連携したり、当法人理事とし
て、いつもとても貴重なご意見を下さっています。

古くは、理事長はじめ他スタッフのMSW時代に、
保健所勤務の頃からお世話になっている長船さん！日
頃聴けない支援者としての熱い想いやメッセージをお
寄せいただきました。お忙しい中、ありがとうございます!!

Q1「今のお仕事、その中で大切にしていること」

更生保護法人函館創生会更生保護施設「巴寮」の施設長として働いています。巴寮は、犯罪や非行をした人が社会内で安定した生活を再構築し、自立へ向かう力を育てるため、宿泊・生活支援、就労準備、健康管理、社会生活技能の向上など個別支援を行っています。また、保護観察所や福祉・医療、地域住民と連携し、退所後も訪問支援を行うなどして、孤立しない地域生活の基盤づくりを担います。そのためには、本人の希望・価値観を軸に支援を組み立て伴走する姿勢が不可欠です。また、企業、医療、福祉、住民との協働を日常化し、退所後の「居場所」と「役割」を確保する視点が重要です。さらには、行政・福祉・司法の間にある壁を越え、本人が必要な支援につながるよう橋渡しを行うことが当施設の専門性です。そうした中で施設長として一番大切にしていることは、施設長は単なる管理者ではなく、利用者・職員・地域・行政をつなぐ「方向性の舵取り役」です。最も大切にすべきことは“施設の価値を、地域と本人の未来に結びつける視点を持ち続けること”であると考えています。

Q2「支援者となったきっかけ」

東北福祉大学社会福祉学部福祉心理学科に在籍し北村晴朗教授と出会い、当時は、ほとんどなかった「福祉心理学」を学んだことです。北村教授の福祉心理学論を私なりに要約しますと、人間は至上の価値と尊厳をもつものであり、心理学も当然人間の尊厳と福祉の増進と無縁ではないということです。心理学を職とする者は、個々の人間の尊厳と価値を信じ、人間が自分と他の人々の理解を増進させることを仕事とにしています。その際、その援助を求める人々の福祉を守らなければならないと考えます。更に応用心理学になると、社会的貢献や福祉の増進を目的とするものでもあります。心理学はすべてその本質上、人間の福祉を守りこれを増進させることを最後の目的とするものであり、人々の福祉=幸福であるとする考えに至ります。

福祉心理学科に入学し、北村教授の「福祉心理論」を中心に一般・応用心理学を学び、北村ゼミで出会った諸先輩や同期たちとの未来に向けたディスカッションと学びがその後の仕事の糧となっています。

Q3「これから取り組みたいこと」

第二次再犯防止推進計画では、更生保護施設を「地域における再出発支援の中核」と位置づけ、住居確保、生活支援、就労支援、福祉との連携を一体的に担う拠点として強化しています。特に高齢・障害・依存症など支援ニーズの高い人の受皿として機能向上と地域連携の深化が求められています。

そこで、巴寮としては、刑務所出所者等に対して専門性の高い、特色のある処遇を提供するとともに地域の関係者・団体や自治体等による支援活動への支援も担う存在になることを目指し、仮称、更生保護地域ネットワークセンターを構築して、活動の強化を図りたいと考えています。

Q4「小呂野へのメッセージ」

小呂野は「よりよく生きることがを支援する」を基本理念に掲げ、高齢な方や障がいを抱える方々が、地域社会で安心して日常生活を送れるよう、個人の尊厳を尊重したサポートを実践しています。発会当時から知る者としては深く共感し敬意を抱いております。

更生保護施設では、入所者が抱える住居・就労・医療・依存症・家族関係など多面的な課題に単独で対応することは困難です。そのため、福祉、医療、司法、就労支援、地域支援など多機関連携により切れ目のない支援を実現し、生活基盤の確立と再犯防止を図ることが不可欠となります。

犯罪歴があっても、人は本来「尊厳ある存在」であり、社会の一員として生きる価値を持っています。小呂野の理念と実践をお手本に頑張りたいと思います。

時々、youtubeのレシピ動画を利用しています。とても便利ですよね～。今回は料理研究家のリュウジさんの簡単で美味しい「最高傑作 鶏お雑煮」をご紹介します（youtubeで「リュウジ」と「雑煮」で検索すると、最初に出てくるものです）。普通の簡単鍋にも応用できるアイデアが詰まっています。

今年の元旦に作った際、もっと簡単（手抜き）にするため、だしの素や白だしを使用することで、だしを取るのと調味料の配合を省略して作りました。手抜きアレンジしても美味しかったですよ～m(_)_m

材料（4人分）

切り餅 4枚
小松菜 200g
鶏もも肉 1枚
（300-350g）
かまぼこ 適量
だし（昆布1枚、鰹節5g）
水 700ml
塩 小さじ1
醤油 大さじ1+小さじ1
みりん 大さじ1+小さじ1

＜作り方＞

- 鍋に水、昆布を入れて火にかけ、沸騰したら鰹節、鶏もも肉をまるごと加えてフタをして弱火で約45分煮込む。
- 鶏肉を一度別の皿に取り出しざる等で出し汁をこす。
- 出し汁が濃い場合は、カップ半分程度の水で薄める。鶏肉を鍋に戻し、しゃもじ等で食べやすい大きさにほぐす。
- 食べやすい大きさに切った小松菜、塩、醤油、みりん、餅を加え、餅がやわらかくなるまで煮る。



み～う～の
お勧め料理

すでに皆さまにお送りしています
2月28日開催の道新福祉基金助成事業
拡大小呂野塾『悩みながら成長していく
ソーシャルワーカー 生活保護現場で40
年働き続けて』（渡辺潤さん講演）は、
現在、さまざまな方面からの参加申込み
を頂いています。当地ではなかなか聴け
ない貴重な講演です。

実はこのテーマに至るまで、スタッフ
は時間をかけ討議を重ねました。

「共生」を大きなテーマに、これまで
の自分たちの実践の中から見えてきた、
真の共生を阻害するさまざまな実態を話
し合い、たどり着いたのが今回の内容で
す。まだまだ参加は可能です。

ぜひお申込み下さい！

全国で大雪のたよりが届いた
1月～2月上旬。函館は幸いな
ことに雪の少ない中で、暦の春
～節分・立春～を迎えました。

節分といえば、昔は豆まきが
定番でしたが、今は恵方巻。ご
主人たち7人は全員で南南東を
向いて大口を開け、恵方巻を食
べていました。今年の小呂野は、
かなり良いことがありそうです。

会員の皆さまのご多幸もお祈
りしています。



シマの独り言

—オススメの本—



『テントウムシの島めぐり』

盛口 満 著 地人書館

わたしが好きな虫はてんとう虫。

「太陽に向かって飛ぶ習性がある」

「農作物を守って、恵みをもたらす救世主」

単純そのものの私は、「太陽に向かう」とか、
「救世主」とか、

そんなワードに惹かれ、憧れを抱き、
大人になりました。

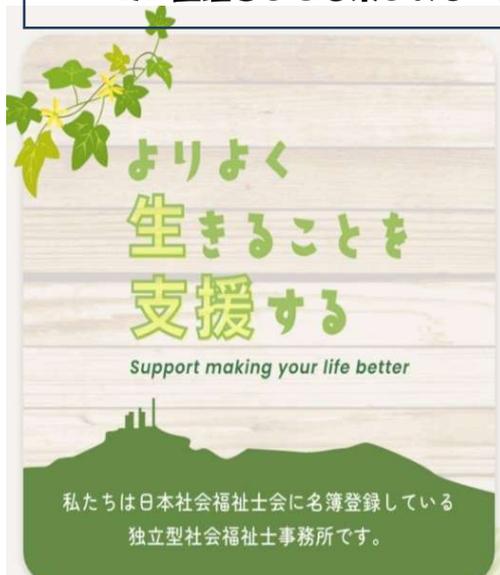
この本は、理科教師にして

イラストレーターでもある作者が、
その土地の固有性や、人と自然の歴史、
環境変化などについて、
てんとう虫をテーマにイラストを交え、
広大で複雑な関係を、わかりやすく
描いています。

色彩や斑紋の変異が多数載っていて、

ミニ図鑑としても楽しめる一冊です 🐞

こにし



〒041-0806
函館市美原5丁目31-10
TEL 0138-83-8471
FAX 0138-83-8472
MAIL simasakura1@gmail.com

特定非営利活動法人 小呂野
ゆあさ社会福祉士事務所 ●
湯浅 弥 湯浅 留美
湯浅 しま 高橋 鑑一
小西 真帆 前川 智也
宇美 隆浩

私たちは日本社会福祉士会に名簿登録している
独立型社会福祉士事務所です。